

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第82回放送の概要 (2014年6月28日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なか (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

かりん (妹尾優香)
アコ (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
いっちゃん (一ノ瀬悟)

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) EXILE の ATSUSI です。世界には苛酷な現実と試練が溢れている。それでも愛の力を信じている。人間を救うのは人間だ。活動資金にご協力を。日本赤十字社。

(CM) 尼崎で配電用部品を製造している、「オーテック」という会社ですが、そのかわら、2種類の米焼酎、「ダンディースマイル」と「親父のほほえみ」を販売しています。水割りでおいしく、お米のまろやかさを感じられる米焼酎です。身体を酸化させる原因となる活性酸素を、減少させ、老化予防、美容に有効な、「水素水」の販売も行っています。

本日は、尼崎市の、オーテック様 (電話06-6489-1314) の御協力を、頂きました。

1. ゲストコーナー (1): 産業遺産探検家 写真家 前畑温子さん

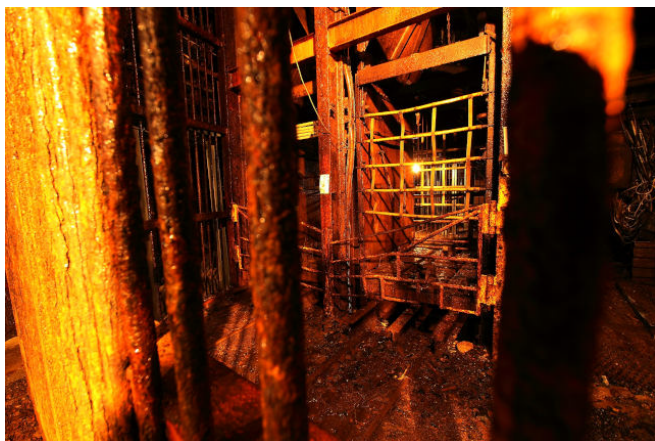
産業遺産について、子どもの頃は一切興味がなかった。20歳の頃から黒くて小さなホルガというトイカメラに一目ぼれし、23歳ころまで写真を撮って楽しんでた。友達から写真がそんなに好きなら一眼レフを買ったらと言われ、購入した。何を撮ろうかと考え、本屋の写真集コーナーで廃墟の写真集を見た時、朽ち果てた廃墟美に魅せられ、日本にもこのような場所がある事を知ったのが、廃墟・産業遺産に入るきっかけとなった。廃墟写真の古いボロボロの建物に緑が巻きついたり、錆びた機械が建っている姿を美しいと感じた。

廃墟の世界を知り、廃墟には写真集を出すようなプロでないと行けないと思っていたが、自分も行ってみたく思っていたところ、たまたま知り合った人が廃墟に行っている事を知り連れて行ってもらった。最初に行ったのは、佐賀県伊万里市の川南造船所跡で、戦時中人間魚雷回天を造っていた。写真集で見たのと同じで非常にきれいと思った。男は廃墟の物語に惹かれるが、前畑さんは事前に調べることはせず、先入観を持たずに初めて自分の目で見る事を大事にしており、物語より見た目に惹かれるタイプです。



川南造船所 (佐賀県)

女性写真家は少なく、廃墟で出版している人はいるが、産業遺産ではない。「廃墟」は手つかずで保存活動がされておらず、ボロボロで放置されているもの、「産業遺産」は地域の宝として守りたい人がおり、歴史的価値があり、建築物として優れているものをいう。廃墟から産業遺産に変わったきっかけは、廃墟マニアの時に兵庫県の明延鉱山に行った時に、近くの神子畑鉱山に行くときと解体された跡になっており、明延鉱山のガイドに聞くと、自分達のような若者が行くことにより、解体されるものもある事を教えられた。好きで行っていたことが、自分達のせいではなくなるということについて仲間と話をした。翌年の2009年に産業遺産を旅したり記録をするNPO J-heritage を立ち上げた。



明延鉱山（兵庫県）



神子畑鉱山（兵庫県）

J-heritage ではこのような産業遺産を観光するツアーを開催し、その中で参加者が実際に産業遺産に携わっている方のお話を聞く機会や、まち歩きをおこなうことで、その地域を知ってもらうきっかけを作っています。

産業遺産を見に行くと、話を聞かないといけなし、写真が好きに撮れない、時間の制約があるなどNPOを初めて数年は廃墟の方が面白いと思っていた。歴史に興味を持つようになったのは、NPO発足2年後に北海道の赤平炭鉱に行った時のガイドさんが、現役の時にそこで働いていた人で、救護班を担当していた時、事故で後輩がなくなった話をしてくれ、話を聞いた時に涙が出てきたことからである。それまでのガイドさんが話をしなかったようなことを語ってくれた。それまでは歴史には全く興味を覚えなかったが、目の前で話をしている人の歴史の話は、遠い昔の話ではないことに気付いた。そこで初めて産業遺産は、建物だけでなくそこにいた人、地域をあわせて魅力であることに気付き目覚めた。赤平炭鉱は前原さんにとって産業遺産に目覚めた場所である。NPO J-heritage 発祥の地は明延鉱山である。



赤平炭鉱（北海道）

赤平炭鉱と同じように感じた場所は軍艦島である。「軍艦島を世界遺産にする会」の坂本道徳さんのガイドを初めて聞いた時、勝手に行くのではなく、俺の話を聞きながら来いと言われたが理解できなかった。坂本さんは軍艦島に住んでいた人で、ボロボロの姿を見せて、もしかして未来の日本の姿がこのようになるかもしれない言われ、考えさせられる一言で、このままではまずいという危機感に襲われた。

同じ場所に何回も行くと、昔ここはデートコースだったというような話をしてくれることがある。歴史より体験談の方が親近間がわき、取材時間がオーバーする。赤平炭鉱では1時間の予定が4時間になった。

産業遺産周辺の地域についても飲食関係などを調べ、ツアー客に名物を紹介し、町を知ってもらうようにしている。産業遺産は地域があってこそなので、食べて町を歩くようにしている。前畑さんのご主人は子どもの頃から廃墟を遊び場にしていて、筋金入りで、前畑さんへのプロポーズは軍艦島とのことです。



軍艦島（長崎県）

2. ミュージック：Unchained Melody（GHOST/ニューヨークの幻）

“Unchained”とは、「鎖につながれていない」「解放された」といった意味。もともとこの歌は1955年のB級映画“Unchained”の挿入歌。刑務所の囚人が、刑期を全うして妻子のいる故郷に帰るか、脱獄するかで悩む物語。自由と愛の渴望を歌った囚人の歌なのでこういうタイトルとなったのではないかと思われる。

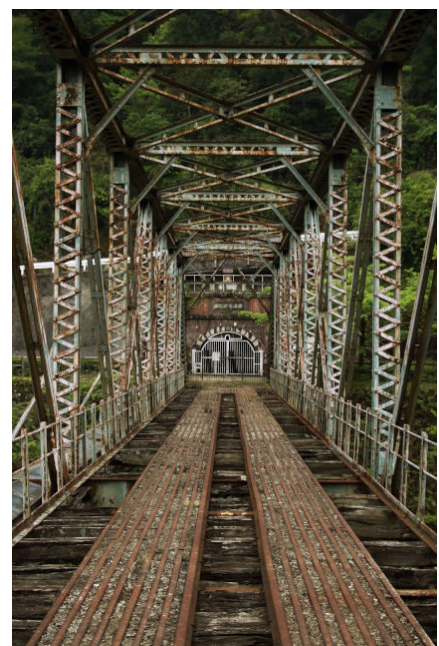
3. ゲストコーナ（2）：

NPO法人J-heritageの現在のメンバーは10人、全員がマニアというわけではなが、すごいマニアと思えるメンバーは長田在住で、構想や計画または建設の段階で中止され、実現しなかった鉄道路線「未成線」ばかりをおっかけたり、北海道に住んでいると思われるほど廃墟を求めて北海道に行っている人がいる。



針尾無線塔（佐賀県）

J-heritageの活動の一つである「産業遺産を繋ぐ活動」として、全国の産業遺産のキーマンを集め、昨年産業遺産成功事例やそうでない事例の発表を行い、自分達の地域で活かしていけないか考える情報交換を目的とした会合をおこなった。うまくいっている佐世保市の針尾無線塔の事例では、地域の保存活動に際してどういう人を巻き込むかについて、教育委員会が地元の3区を1軒づつまわり保存会への入会を呼びかけ、全員が入会するようになったことが発表された。ここは産業遺産が町の宝という意識を持っている。四国の別子銅山の地元も産業遺産の保存に対する意識が高く、高校生がユネスコ部という部活動をしており、別子銅山の勉強をし、ツアーを行っている。前畑さんも高校生に案内してもらったがとてもかわいく、調べたファイルで説明や、クイズを一生懸命出してくれた。部活に入った理由を聞くと別子で生まれたからと言っていた。前畑さんの高校時代は地域のことについては全く知らず、地元の事が好きで活動していることに感動した。カメラを持って歩いていると知らないおっちゃんが話しかけてくる土地柄である。地域の悩みとしては保存費用、知名度が低いので人が来てくれないなどである。全国的にもツアーを計画し実施しているのは、現在はJ-heritageのみである。



別子銅山（愛媛県）

J-heritageの「地域を元気にする活動」として、生野で2年間アートイベントを実施した。今年も11月1日～9日まで「生野ルートダルジャン芸術祭」を実施予定で、生野銀山の町を使って行う。生野はもともと町を活用できないという話があり、J-heritageと行政と話し合って実現したもの。多くのアーティストが参加し、J-heritageも写真展を行った。前畑さんは作家の一人として造型作品を出品した。アートには地元の瓦であるカラミ石（注：カラミ石は鉱石から銀や銅などを精錬した後の鉱滓を成形した石で、鉱山からの廃棄物）も使われた。石見銀山が世界遺産になってから、産業遺産が地域活性化に繋がることにみんなが気付いた。

前畑さんは先月「女子的産業遺産探検」を出版した。これまでの産業遺産の本は、写真のみか歴史が沢山掲載されているものであるが、今回の本はあえて歴史に触れず、文章はガイドの話、地域の食べ物屋の話などを、産業遺産に興味のなかった時から今に至る10年間をエッセイ風に詰め込んだものです。読者は女性を強く意識し、女性も探検できる事を知ってほしかった。男女を問わず産業遺産に興味のない人も、産業遺産は勉強をしなくては、歴史を知らなくてはいけないといった難しいものではなく、ガイドに会いに行きたい、探検したいというような理由で行ける場所である事を伝えたかった。発行後女性から私も行きたいといった声が聞こえてきている。NPOがこれまでに企画したツアーは長田近辺では、旧二葉小学校、湊川隧道、兵庫県では生野銀山、神子畑鉱山、先週は姫路モノレールなどである。出版した本の紹介のため、テレビ、ラジオ、新聞など多くのマスコミに出演している。特にテレビはどのカメラを見ればよいのかわからず非常に緊張した。

前畑温子写真展：女子的産業遺産探検がキャノンギャラリーで開催されます。

銀座：7月17日～23日

ギャラリートーク：7月19日

梅田：9月4日～10日

ギャラリートーク：9月6日

福岡：9月18日～30日

7月4日には、19時50分中津駅集合の女性限定トークイベントを開催します。

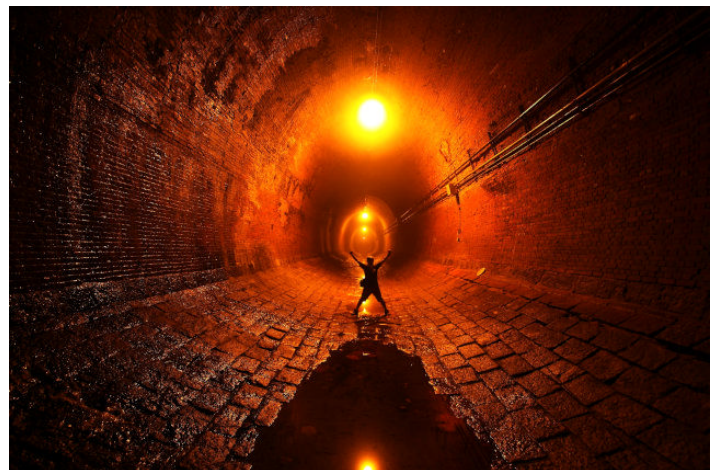


女子的産業遺産探検（ポプラ社）

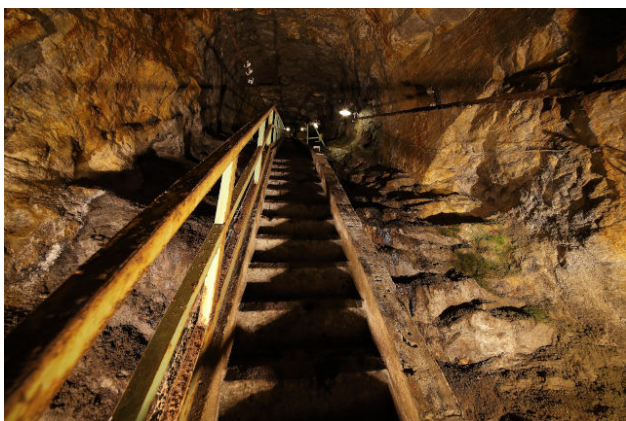
前畑さんの今後の抱負は、行った事がない産業遺産が沢山あるので、全国制覇をしたいと思っている。



旧二葉小学校（兵庫県）



湊川隧道（兵庫県）



生野銀山（兵庫県）



姫路モノレール（兵庫県）

（写真提供：前畑温子さん）

4. こぼれた話、こぼれなかった話：高校生、グローバル人材育成の推進

（1）国際化が進展する中、豊かな語学力、コミュニケーション能力をもち、将来、世界で活躍できるグローバル人材を育む事業が高校で進められています。

通常の英語の授業に加え、外国語指導助手（ALT）を活用して特別にグローバル・イングリッシュ・プロジェクトが実施され、異文化体験などを取り入れながら各校が独自に工夫して取組まれています。併せて、海外留学チャレンジプランとして留学機運の醸成など海外に目を向ける姿勢を養おうとしています。

（2）グローバル・イングリッシュ・プロジェクトは、ALTが高校で授業や体験活動などを行うことで、実践的な英語力を高めるとともに、英語による思考力や判断力、表現力などを見につけさせます。昨年度にはALTを32人増員して132人を配置しました。プログラムは各校が独自に企画します。

ALTと生徒が英語で母国の伝統文化や遊びなどを教え合ったり、海外の高校生に英語でメールを書いてみるなどコミュニケーションを重視した実践的な取組みです。特に国際系の学科等では、英語で理科等の授業を行い、研究成果を発表するなど高レベルの試みも見られます。夏休みには、イングリッシュ・キャンプを実施する高校も多いです。ワークショップやゲーム、クイズ大会など生徒とALTが交流を図りながら、国際理解を深めます。

さらに、ホームルームや部活動、学校行事など日常的な生活にALTが積極的に関わることで、英語活動機会の充実が図られています。生徒は、英語で考え、話すことの難しさを感じながらも、ALTとのふれあいを楽しみ、英会話の経験を積んでいます。

（3）海外留学チャレンジプランは、原則1年間、外国の正規の後期中等教育機関に通う生徒を対象に、留学資金の一部を給付してくれます。海外留学の経験によってグローバル人材を育成するのが狙いです。地方公共団体や高校生の留学交流を扱う民間団体等が主催する海外プロジェクトへの参加をはじめ、個人で海外留学する生徒も対象になります。定員は30人の予定で、書類審査や面接審査のうえ決定されます。

さらに、生徒が主体性、積極性をもって海外留学に臨もうとする意欲を高めるため、高校へ国際舞台で活躍している人材を講師として派遣する取組みもあります。また、昨年度、兵庫県と米国ワシントン州との姉妹提携50周年を記念した訪問団に、高校生も参加しました。「県立高校生交流団」として、記念式典に出席したり、現地の高校生らと交流しました。

何と言っても、これからの社会、コミュニケーション能力はますます不可欠となっけきそうです。生徒たちが興味をもって、積極的に取り組んでくれることを期待します。

5. 地域瓦版

6月29日（日）は須磨イルカの日2014が11時30分～13時まで、須磨ドルフィンコーストで開催されます。須磨海浜水族園で2頭のバンドーイルカを、自然の海で泳がせる須磨ドルフィンコースト

トプロジェクトのお披露目式として開催されます。明日は無料でトレーニング風景を見る事が出来ます。また海上保安庁とのコラボで自己救命策確保のキャンペーンがあります。須磨海岸クリーン作戦も実施。

7月1日～8月31日まで地下鉄海岸線1キロ切符実証試験が行われます。短い区間でも利用できるよう1キロ以下の区間料金210円を110円に、子ども、敬老は110円を60円に割引します。7月1日は発売を記念して10時～12時まで花時計駅前で、110円で1キロのお米が買えます。

7月19日13時～15時、湊川隧道で一般公開とミニコンサートが開催されます。

6. 来週のゲスト

来月のゲストは、卓球のラケットを販売されている玉田圭司さんにお越し頂きます。

ゆうかりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>